

Higashimurayama City International Friendship Association

東村山市国際友好協会 第123号

令和2年度決算と令和3年度予算

1. 収入 (単位:円)

項目	令和2年度決算額	令和3年度予算額
会費	1,256,000	1,256,000
英会話講座収入	0	1,072,500
バザー事業収入	0	300,000
補助金	0	470,000
繰越金	2,218,825	1,367,749
雑収入	17,568	0
合計	3,492,393	4,466,249

令和3年度事業計画

- ☆ 英会話講座の開講
前期中止・後期10月～3月
- ☆ イ市「学生訪問団」受入事業…中止
- ☆ 「親善訪問派遣団」派遣事業…中止
- ☆ 広報紙「人と人」の発行
7月、11月(全戸配布)、3月
- ☆ 市民産業まつり(バザー出店) 11月
- ☆ 役員・委員研修会…中止
- ☆ その他年間を通じて
(新型コロナウイルス感染症予防のため変更あり)

世界的に猛威をふるう中、誠に残念ですが、令和2年度、3年度と親善訪問団の受入、派遣事業が中止となり、43年という長い年月を重ねてまいりました。人と人との絆を大切に、両市の友好にご尽力頂いております。東村山市国際友好協会の皆様には心より感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威をふるう中、誠に残念ですが、令和2年度、3年度と親善訪問団の受入、派遣事業が中止となり、43年という長い年月を重ねてまいりました。人と人との絆を大切に、両市の友好にご尽力頂いております。東村山市国際友好協会の皆様には心より感謝を申し上げます。

「コロナ禍を乗り越え、市民交流の再開を祈念して」
市長・会長挨拶

東村山市長 渡部 尚
(当協会名誉会長)

業が中止となりました。このような状況だからこそ、世界規模で相手を思いやる心が必要と求められ、貴協会の皆様がいままで両市民の間に築かれてきた友好親善と相互理解の心が国際社会ではますます重要になっていくと思われまします。



このように状況だからこそ、世界規模で相手を思いやる心が必要と求められ、貴協会の皆様がいままで両市民の間に築かれてきた友好親善と相互理解の心が国際社会ではますます重要になっていくと思われまします。

むすびに、新型コロナウイルス感染症が収束し、再び両市がお互いの市を訪れ、交流できることをご祈念いたします。

東村山市国際友好協会
会長 折笠 広樹

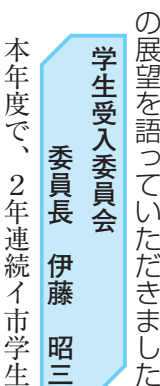


2. 支出

項目	令和2年度決算額	令和3年度予算額
会議費	8,254	20,000
消耗品費	44,000	70,000
印刷費	33,309	60,000
渉外費	2,662	100,000
通信費	68,517	80,000
使用料	1,200	50,000
備品費	0	50,000
親善訪問団派遣費	2,067	540,000
学生受入費	0	270,000
訪問者受入費	0	0
教育交流費	0	0
バザー費	0	200,000
英会話講座費	1,648,852	1,082,000
イ市行事協力費	0	0
日本庭園造園協力費	0	10,000
広報宣伝費	91,225	624,000
会員交流費	0	350,000
会員拡充費	77,238	100,000
ホームページ管理費	136,660	140,000
諸支出金	10,660	100,000
予備費	0	620,249
合計	2,124,644	4,466,249

会員の皆様には日頃より本会の活動にご理解ご協力を頂き誠にありがとうございます。昨年はコロナ禍の影響で総会を開催出来ませんでした。残念ながら本年も再度の緊急事態宣言のため、総会を開催することが出来ず、書面での議決となりました。その結果、全ての議案について多数の会員から承認を得られたことをご報告いたします。

コロナ禍が早急に終息し、ホストファミリーが充足され、安全にイ市学生の訪問が全うされる環境が整うことを祈念しております。



派遣委員会
委員長 吉川 敏子

学生交流事業の中止を受け、私たちは、これまでの取り組みを改善する契機とする決意を新たにしました。両市民の交流の歴史がコロナ禍で途切れることのないよう、派遣事業の新たな在り方、「姉妹都市交流への想い」を引き継ぐDVD製作等について、リモート会議も駆使して情報交換や協議を重ねています。

英会話委員会
委員長 中村 美和子

昨年の秋には、令和3年度前期英会話講座の開講準備をしておりました。しかし、コロナ禍収束せず開講見送りを余儀なくされました。後期にはこの状況が好転し、開講できるよう願っています。

さて、残念なことですが、長年講師を務められたバネッサ先生が私事により退任されました。

広報委員会
委員長 藤原 幸博

昨年度の委員会活動は、コロナ禍で協会の全行事が中止となり、広報紙の発行は1回でした。今年度も困難な状況ですが、リモートで編集会議を行うことに決め、皆でZOOMに慣れることから始めました。今では画面上での校正作業もスムーズです。今後も交流の記録を続けることが広報の使命と考えています。

会員交流委員会
委員長 伊藤 儀一郎

コロナ大流行を専門家は数年前から予測しており歴史上約百

年単位での出来事です。前回は百年前のスペイン風邪。ウイルスの変異種で終息に4年強。今回はワクチン開発により2年強での終息が望まれている。当委員会では、3密会員交流は無理だが、イ市の友人達とのリモート交流は出来るかと考えています。

会員拡充委員会
委員長 折笠 文子

コロナ禍のため、会の活動やイベントが全て停止となり非常に残念です。40年以上の歴史ある会ですので終息後は、以前に増して魅力ある活動を再開出来ればと願っています。

会の活動を支えて頂いている会員の皆様には大変恐縮ですが、9月頃に会費の集金をさせて頂きたいと考えていますので、ご協力よろしくお願い致します。

◆ 訃報

イ市姉妹都市委員会の元委員長メジャー・ハメット氏(78)が3月29日に永眠されました。30年間、地域団体の要職を務め多岐にわたり尽力されました。氏の功績に敬意を表し、氏の名前を冠した奨学金が創設され、当協会からも100ドルを寄付致しました。

◆ 年会費納入のお願い

令和3年度の会費は、会員拡充委員会が9月初旬からお預かりに伺います。その際、会員の皆様に感謝の気持ちとして、ささやかですが粗品(不織布マスク)をお届けいたします。



新 知 故 温

姉妹都市との友好を長年歩み続けてきましたが、今はやむなく立ち止まらざるを得ません。そこで当協会に深く関わった方々に、次の前進のために今までを振り返っていただきました。

- 質問①「嬉しかったことや楽しかったこと」
 ②「失敗や苦勞したこと」
 ③「印象的なことや発見したこと」
 ④「協会に期待していること」



元会長 大野 茂
① 姉妹都市締結後6年目、日本

庭園造園に参加したときのこと。庭園委員会など当市から8名とイ市職員5〜6名の共同で工事開始。ラーナさんの通訳。僅か数日での見事な庭の完成は夢の様でした。

毎日の労働を支えたのは、心のこもった食事の接待でした。

② 工事開始まもなく庭石の不足がわかり、隣のアイオワ州ブルーの採石場まで私が同乗。約280キロ先まで、最初で最後のダンブカーに乗ってのドライブ。居心地悪い助手席での長時間、辛抱しました。

③ 庭園は2005年「熊木令次園」とイ市議会が承認。2014年ラーナさんが、庭園に「石のベンチ」を寄贈し設置されたこと。



前会長 岩瀬 由明
① 協会活動を通して懇意になっ

④ 共に汗を流したイ市市役所の日本庭園、平和と友情のシンボルとして維持保存のため今後とも両市の協力を。造園に関わった人々の再会も願っています。

た会員とのプライベート旅行、協会主催の泊旅行。グレンデール小学校の子供たちとの交流。初めての訪問時の乗馬体験。ホストファミリーとのゴルフ、野球観戦。

② 帰国の際お礼のメッセージを、電子辞書片手に苦戦して書いた。(2回目は予め作って行った。)ホストとの食事の際のステキがわらじのように大きくてペルトを緩め苦勞して完食した。

③ ホストファミリーとの別れの際、滞在中の献身的なおもてなしに思わず涙腺がゆるんだこと。先輩派遣生が協会の役員や委員となつてその素晴らしい資質で協力して頂いていること。

④ 姉妹都市提携して43年になります。ここ2年はコロナ禍により全ての交流が出来ていませんが、ここで歩みを止める事なく皆で知恵を出し合い楽しく活発な交流の場を作って頂きたい。



元副会長 東村 貴美
① 友人がたくさん出来た事です

1982年第2回訪問学生と一緒にホストした方々とは現在も交流が続いています。1984年に初海外旅行先のイ市で生活様式の違いに驚きましたが楽しかった。

② 英語が話せず辞書を片手に身振り手振りの会話で苦勞しました。委員会制度が出来た時、ボランティアが少なくして1人が何役も兼務したので、外部より一部の人の友好協会だと非難された事もありました。

③ 姉妹都市提携後の運営を一般市民に任せて下さった事です。会員も増え、派遣生の申込も多くなりました。全国の姉妹都市会議で当市は成功しているモデル市として何度も発表しました。

④ 先人が両市を結ぶ「宿根草」の種を蒔き、以来43年間毎年「相互派遣交流」の花が咲いています。これからも若者のためにこの花を枯らす事なく永遠に育てて欲しいと願っております。

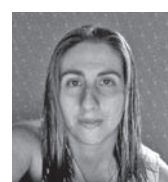


元副会長 佐藤 公子
① 1981年より34年間当協会に関わ

った活動は楽しかった。姉妹都市事業の一端を担ったことを誇りに思う。長期間受入委員会に所属し、人と人の絆を深め貴重な体験を得た。異文化に戸惑いながらも互いの違いを認め合う多様性への理解を深めた。

② イ市との連絡係を担っていた時期はパソコン通信上での解釈の違いや、うっかりミス等で各委員会活動に支障をきたさないよう緊張感があった。

③ 熊木令次氏がイ市の特別名誉市民の称号を授与された事。慶弔規定の草案を作成し、OB・OG



JSSCC 新委員長
キャシー・パロ氏に聞く
私はグレンデール小学校に通っていた時は「ジャパニークラブ」に所属していました。2002年に派遣学生として東村山市

「協会のこと何も知らなかったけど・・・」

2018年、「姉妹都市提携40周年記念事業の市民派遣団」で米国ミズーリ州インディペンデンス市にホームステイしました。と声をかけていただき、海外旅行の経験が全くない私は「えっ!?米国?イ市?」どこの団体か?と半信半疑。でも頭の中は「行きたい、海外旅行」という思いと、「でも肝心の英語がダメだ」と葛藤していました。「英語しゃべれなくても大丈夫だから行きましょう!」の声に背中を押され決心しました。

その時は、「東村山市国際友好協会」がどのような団

Cookie Break

でどのような活動をしているのか全く知りませんでした。(今となっては恥ずかしい限り)事前学習会に参加して「東村山市国際友好協会」の活動や、イ市と姉妹都市を提携するに到った経緯等が少し分りました。実際イ市に行き、ラーナさんのご尽力で今の両市の交流が実現、継続出来ることを知り感慨深い気持ちになりました。又、今回の訪問団に参加させていただいてトルーマン元アメリカ大統領と原子爆弾・広島の関係も理解できました。

世界平和を願う気持ちは誰も同じであり、その趣旨を目的に活動続ける友好協会でお役に立てられるようにと思っています。

(T・H)

会を設立、さらに相互に善意の品々を寄贈する協力体制を構築。

④ 時代に即した交流プログラムを次世代に引き継ぎ、未来に誇る家族ぐるみの交流の継続。諸先輩方から継承した歴史ある伝統や協会の基本理念を培い、互いに社会貢献を目指し知恵を出し合うパートナーシップの推進。

にホームステイしたことがあり、2014年からJSSC(*)の委員を務めていて、昨年JSSCの委員長に就任しました。

パンデミックの影響で両市の学生交流が2年続けて中止になったことは非常に残念ですが、JSSCは6月5日から19日までオンラインフェスティバルを開催しました。日本に関する品物のオークション販売、オンラインゲームや東村山フォトツアーを企画しました。

今は2022年の学生交流の準備を行っているところですが、世界のパンデミックの状況が見通せず、不安なまま交流を再開する

ことは避けなければなりません。東村山市と話し合せて、皆が安心して派遣生を送ったり受け入れたりできる時期を見極めていきたいと思っています。

*日本姉妹都市委員会

○本年度中止予定の活動
英会話講座前期、学生派遣、受入れ、会員交流活動(産業まつり、クリスマス会、役員・委員研修会)等予定が変更の場合はホームページでお知らせします。

○人事異動(市民部関係)
市民部次長肥沼裕史氏は教育部公民館館長に転出。後任の次長に高橋道明氏が課税課長より着任。

これまででもサーズ等により交流が中断したことがありました。そこで今号は経験豊富な先輩方に尋ねる「温故知新」を企画しました。コロナ禍でも人と人を繋ぐ広報紙の役割を担い、継続を切に願っています。

編集後記

人と人
発行：東村山市国際友好協会
編集：広報委員会
東村山市本町 1-2-3
東村山市役所内
☎393-5111 内線2558・2559
http://www.h-ifa.com/